

生物多様性がもたらす4つの恵み（生態系サービス）

【くらしの基盤】 （供給サービス）	【安全・安心の基礎】 （調整サービス）	【豊かな文化の基盤】 （文化的サービス）	【生命の存立基盤】 （基盤サービス）
食料、水、木材、繊維、医薬品の原料等の資源の提供など	水質浄化、気候の調節、自然災害の防止や被害の軽減など	自然景観の美しさ、宗教的価値、レクリエーションの場の提供など	光合成による酸素の提供、栄養塩の循環、土壌形成など

将来像

- ✓ 生物多様性の重要性が広く認識され、多様な主体が保全活動に参画している。
- ✓ 生物多様性がもたらす豊かな恵みを楽しみ、持続的に活用している。
- ✓ 本県ならではの自然環境や景観などの環境資産を活かした取組みにより、地域の活性化が図られている。

施策の展開方向

山岳観光者数1,000千人

1 生物多様性の保全

- ◆ 多様な主体が自然とのふれあい活動等へ参画し、生物多様性の理解を促進
- ◆ 多様な主体が連携・協働し、絶滅のおそれのある種や重要な生態系を保全・再生
- ◆ 外来種対策の推進
- ◆ 野生鳥獣の管理強化  
(ツキノグマ、コホザル、イノシ、コホジカ)
- ◆ 地域の実情に応じた集落単位での総合的な鳥獣被害対策の推進

2 自然環境との共生

- ◆ 山岳資源や自然公園、野外レクリエーション施設等の保全・整備・維持管理及びその利活用を推進
- ◆ 計画的な造林や間伐等の森林整備など、多様で健全な森林づくりの推進
- ◆ 荒廃森林の復旧整備、水土保持機能の低下した森林の整備
- ◆ 県民参加の森づくり等の推進
- ◆ 継続的な河川・海岸の保全、清掃美化活動の支援
- ◆ 環境影響評価の適正な実施

3 環境資産の活用・継承

- ◆ 「やまがた百名山」に関する更なる情報発信
- ◆ 「『山の日』全国大会」の開催による、山岳観光者数の増加
- ◆ 登山道等の予防保全型の修繕や避難小屋の新設
- ◆ 豊かな自然・景観を活かした地域活性化の推進
- ◆ 農山漁村地域の保全と活用による、農業の有する多面的機能の維持・発揮